

2011年3月16日17時半  
糸長浩司（日本大学）

研究室で長年、むらづくり支援をしている福島県飯舘村の村長さんら行政関係者への携帯電話で把握した状況を報告します。位置的には、津波被害のあった南相馬市から西に上がった農山村地域で、第一原発からの30km以内に村の南東端の集落が入っている村です。

①下記のような小学校等が、津波地域から避難してきている。

飯舘村のHPには、下記が掲載されています。2011年3月16日現在

- ・草野小学校（体育館） 飯舘村草野字大師堂 113-1  
収容人数 450人 現在受け入れ人数 307人
- ・白石小学校（体育館） 飯舘村白石字田尻 127-1  
収容人数 300人 現在受け入れ人数 244人
- ・飯樋小学校（体育館） 飯舘村飯樋字町 102  
収容人数 300人 現在受け入れ人数 124人
- ・いちばん館 飯舘村伊丹沢字伊丹沢 580-1  
収容人数 280人 現在受け入れ人数 182人
- ・までいな家 飯舘村伊丹沢字伊丹沢 580-1  
収容人数 40人 現在受け入れ人数 30人

②上記の「までいな家」は、研究室で計画・事業支援してきている、環境省の助成金を活用したモデルエコハウスです。役場の横に建設しています。断熱、蓄熱、薪ボイラーで対応しているエコ住宅です。土間もあります。

までいな家は、震災では無事で、原町等の避難民を受けて入れている。

までいな家は快適なので、病気等で弱い人の受け入れをしている。

ただ、避難民の出入りが激しいようです。

放射能汚染を心配して、飯舘村に立ち寄り、その後、会津に向かって避難している人もいるらしい。混乱していますね。逃げる人、残る人。

役場の人達は逃げるわけにも行かず、原発からの避難民を受けて頑張っている飯舘村の役場の人達に敬意を。

③飯舘村役場の前での空中の放射能汚染状況は、測定器で、30～40マイクロシーベルトの値を示している。雨、雪で地面に落ちてきていることは確かです。

継続的な被曝の状況が心配です。

④今、欲しいものは、食料、石油、ガソリン等です。

さきほど、糸長が、山形県飯豊町長と飯舘村長に携帯電話連絡して、放射能汚染の心配な子ども達の避難引き受けの可能性を打診して可能な状況となり、スムーズに行くことを祈っています。飯舘村の村長も、村民の移動先の市町村を探している状況でもありました。

地震・原発災害での疎開、避難誘導と避難先の提携誘導等の活動をこんなに急激にしないといけない状況は、脱原発の地域づくり戦略の緊急性を痛感します。